

団 体 名	大阪港木材倉庫(株)	所 管 局 名	港湾局
-------	------------	---------	-----

市が法人に求める役割

○ 木材産業の振興と経済発展への寄与

- ・市民の生活や産業の振興に密接に関わりのある木材の円滑な流通を通じて、大阪港における物流の振興と経済発展に寄与する。

○ 本市所有株式売却に向けた条件整備

- ・30年度中に本市所有株式売却を実現させる。

対応方針

1. 顧客ニーズや経済状況を見据えた事業を展開

顧客ニーズと経済動向を見据えた事業運営により新規顧客の獲得と既存顧客の定着化に努める。

2. 健全経営の継続と企業価値の向上

経営資源を有効に活用し売上を確保すると共に経費節減に努め健全経営を継続する。

また、当社の事業運営において欠かすことが出来ない事業用地を継続して確保・拡充し、立地やスケールメリットを活かした施設提供とサービスにより木材流通を支え、当社の役割を果たすと共に、更なる企業価値の向上を目指す。

戦略目標

①顧客ニーズや経済状況を見据えた事業の展開

- ・倉庫施設稼働率
【100% (H29実績)
→100% (H30目標)】

②健全経営の継続

- ・総売上高
【761百万円 (H29見込)
→750百万円 (H30目標)】
- ・経常利益
【113百万円 (H29見込)
→126百万円 (H30目標)】

③企業価値の向上

- ・事業用地の拡充
【0㎡ (H29実績)
→1000㎡以上 (H30目標)】

【参考:中期経営計画の目標値】

様 式 2

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

団 体 名	大阪港木材倉庫(株)	所 管 局 名	港湾局
-------	------------	---------	-----

○中期経営計画の概要

中 期 ビ ジ ョ ン (団体が目指す 中期の到達点)	第1次中期経営計画～Challenge to the future!～(2018年4月期～2021年3月期)の 着実な実行により、盤石な経営基盤の確立と安定した経営を継続し、顧客や株主、地 域社会から信頼され求められる企業を目指す。		
中期経営計画名称 (計画期間)	第1次中期経営計画 ～Challenge to the future!～ (2018年4月期～2021年3月期)	公表先URL	http://www.ohts.jp/

○最終年度の到達目標

戦 略	成果測定指標	単 位	最終年度の 到達目標	目標達成のための活動事項
顧客ニーズや経済 状況を見据えた事 業を展開	倉庫施設稼働率	%	98	顧客にとって魅力ある倉庫施設の提供 と、施設の不具合時に対する迅速な対 応に努めて、新規顧客の獲得と既存顧 客の定着化を図り、倉庫施設稼働率 98%以上を堅持する。
健全経営の継続	総売上高	百 万 円	700	経営資源(人材、事業資産、資金、情 報)の更なる有効活用により、総売上高 7億円以上の安定確保に努める。
	経常利益	百 万 円	100	経営資源(人材、事業資産、資金、情 報)の更なる有効活用による売上の確 保と、コストを意識した効率的な事業運 営により、経常利益1億円以上の安定 確保に努める。
企業価値の向上	事業用地の拡充	m ²	1,000	物件情報の収集と分析に努めて、事業 性が認められると判断した物件であれ ば、売却・賃貸を問わず精力的に入札 に参加し、事業用地の拡充による事業 基盤の強化を図る。

○平成30年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
顧客ニーズや経済状況を見据えた事業を展開	倉庫施設稼働率	%	100.0	98.6	顧客の利用状況を客観的に捉える為、「倉庫施設稼働率」を設定した。 ※H30年度では、大口顧客の撤退が見込まれ、倉庫施設稼働率は前年より△18.5%と大きく減少する見通しであるが、精力的な営業活動により新規顧客の確保と既存顧客の定着化に努め、倉庫施設稼働率100%を継続したい。 (貸付実績面積／貸付可能面積×100)

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
健全経営の継続	総売上高	百万円	750	750	健全な経営を継続するうえで重要となる売上 ^① の獲得状況を客観的に捉えるため「総売上高」を設定した。 ※H30年度では、一部事業地返還による減収と、大口顧客の撤退により総売上高619百万円が見込まれるが、新規顧客の獲得と既存顧客の定着化に努めて総売上高750百万円を確保したい。
	経常利益	百万円	126	126	経営活動の成果を客観的に捉えるため「経常利益」を設定した。 ※H30年度では、新規顧客の獲得と既存顧客の定着化により売上を確保し、経常的に発生する費用の抑制と効率的な事業運営に努めて、経常利益126百万円を確保したい。

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30 目標	中計 H30 目標	H30 目標値設定の考え方 (数値の根拠)
企業価値の向上	事業用地の拡充	m ²	1,000	—	自立化後も健全な経営を継続するため、事業地の拡充による収益確保を図るべく「事業用地の拡充」を設定した。 ※H29年度は市有地の公募(約1600m ²)に参加するも不落であったことから、H30年度も引き続き事業性や効果を見定め、事業性が認められる物件であれば、精力的に入札に参加して事業用地の拡充に努める。

様 式 3

平成30年度経営目標設定表

団 体 名	大阪港木材倉庫(株)	所 管 局 名	港湾局
-------	------------	---------	-----

○中期経営計画の概要

団体経営者の考え (H30の課題と重点目標)	平成30年度(2018年度)は、一部事業地の返還と大口顧客の撤退により、業績への多大な影響が予測されているところであるが、将来の経営課題解決に向けた基礎固めを重点的に取り組むべく、2018年4月期から2021年3月期の3年間を計画期間とする「第1次中期経営計画～Challenge to the future!～」を策定し、顧客ニーズに沿って倉庫等の適切な施設改修を計画的に実行すると共に、事業用地の拡充を図るべく入札等へ精力的に参加し、事業基盤の強化を図り売上の安定確保に努めたい。 また、多額となる修繕と設備投資は重要度・緊急度に応じて計画的に実施するなど、効率的な事業運営に努めると共に、コスト意識の高い人材の育成により、経費の削減と生産性の向上を図って参りたい。
---------------------------	--

○平成30年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
顧客ニーズや経済状況を見据えた事業を展開	倉庫施設稼働率	%	100.0	100.0	100.0	30	同じ	【新規顧客の獲得と既存顧客の定着化】 ・施設の巡視点検の徹底と緊急対応発生件数の抑制を図る。 ・提案型営業の推進、適切な維持修繕と施設改修の実施により、顧客ニーズに対応した施設提供を行う。

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
健全経営の継続	総売上高	百万円	772	761	750	30	低い	【新規顧客の獲得と既存顧客の定着化】 ・施設の巡視点検の徹底と緊急対応発生件数の抑制を図る。 ・提案型営業の推進、適切な維持修繕と施設改修の実施により、顧客ニーズに対応した施設提供を行う。 ・土地売却や賃貸物件情報の収集と分析に努め、事業性が認められる土地であれば精力的に入札等へ参加する。
	経常利益	百万円	106	113	126	30	高い	【効率的な事業運営による利益の確保】 ・多額となる修繕と設備投資は重要度・緊急度に応じて計画的に実施することにより、経常的に発生する費用を抑制する。 ・効率的な事業運営に努めると共に、コスト意識の高い人材の育成により生産性の向上を図る。

※ H29実績が見込値の場合は斜体で表示

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
企業価値の向上	事業用地の拡充	m ²	0	0	1,000	10	高い	【将来の安定経営に資する事業用地の獲得】 ・土地売却や賃貸物件情報の収集と分析に努め、事業性が認められる土地であれば精力的に入札等へ参加する。

補足説明資料1

前年度実績より高い目標を設定できない理由について

団 体 名	大阪港木材倉庫(株)	所 管 局 名	港湾局
-------	------------	---------	-----

経営目標①

視点	戦略目標	成果測定指標	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標	ウェイト	前年度 実績比較
1. CS、事業効果	顧客ニーズや経済状況を見据えた事業を展開	倉庫施設稼働率	%	100	100	100	30	同じ

前年度実績より高い目標を設定できない理由	「100」が最大の目標値であり、これを上回る目標設定が出来ないため。
----------------------	------------------------------------

団 体 が 考 え る 目 標 困 難 度	高い
-----------------------------	----

経営目標②

※ H29実績が見込値の場合は斜体で表示

視点	戦略目標	成果測定指標	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標	ウェイト	前年度 実績比較
2. 財務、効率性	健全経営の継続	総売上高	百万円	772	761	750	30	低い

前年度実績より高い目標を設定できない理由	事業用地の一部返還(H30.4月末)により収益基盤が減少となるため。 ※761百万円(H29見込)－14百万円(事業地返還による減)＝747百万円(H30見通し)
----------------------	--

団 体 が 考 え る 目 標 困 難 度	高い
-----------------------------	----

